

「アーバンアウトドア・反町モデルルーム」が神奈川新聞に掲載されました!

Monday 経済



既存住宅の機能を向上させ、付加価値を高めるリノベーション(大規模改修)事業に、県内企業も力を入れている。人口減少や少子高齢化に伴い、住宅需要の基となる世帯数の増加ペースが鈍化すると思われ、住宅着工戸数が落ちたことに加え、空き家も社会問題化する中、需要を喚起し、中古物件を活用する事業を成長分野と位置付けて、他社との差別化を図ると各社が競い合っている。 (田口 豊)

不動産会社が事業強化

横浜市神奈川区にある築20年ほどのマンション。4階の一室の扉を開けると、住居がキャンパスを兼ねたような空間が広がる。机は切りのない部屋に、ガーデンテーブルやカーテンベンチ、たき火台、三脚スタンドといったキャンパス用品を配置。自由な高さの机で、持ち運びやすいよう設計されている。アウトドア用品を活用した「アーバンアウトドア」の気分に合った暮らしと、その日の気分に合わせた暮らし方を示している。

改修で暮らし方を提案



●室内でもキャンプを楽しむような反町モデルルーム
●横浜市神奈川区
●反町モデルルーム
●リノベ不動産

この空間は、中古物件のリノベーションを軸として提供している「リノベ不動産」が提供する「アーバンアウトドア」のモデルルーム。同社は10月、アウトドア用品大手のスノーピーク(新潟県)と、住宅建築やリフォームに関する事業開発を軸に、モデルルームは、スノーピークの提供する「アーバンアウトドア」を展開している。リノベ不動産の展開は、二層自然から近い都内の住居に、都市部にながら自然を感じてもらえるような空間を目指した。と、事業強化を進める。モデルルームの、もう一つのテーマが「防災」。防災生活にキャンパス用品を取り入れることで、大規模地震などいざというときに役立つはず。同社は今年、都内の企業と連携し、「防災な空間」をテーマに防災グッズを部分改修する商品を販売する予定で、藤田友和社長は「リノベ不動産のさまざまなノウハウを充実させ、受注を伸ばしたい」と意気込む。主に不動産仲介を手掛ける「リンク」グループの三井住友建設センター(横浜市神奈川区)も、「戸建てやマンションのリノベーション事業を強化している。同社は年初に打ち立てた事業開発計画で、リノベーションをさらに収益力を高める事業の中心に据えている」としている。

「二つ」の面で、担当部署を5月から増員し、事業を強化している。二層自然のおおむね100メートルを確保し、少子高齢化が進む中で、リノベーション事業はさらに欠かせないものになる。と、藤田社長は37歳。その責任を覚悟する。顧客の見える形で、自社の専門力を活かせるモデルルームの充実を図っている。その一環で、同市神奈川区にある「三井」建ての団地を買い取り、テーマを定めて改修。2011年4月に開業した反町モデルルームは、昨年11月には家族が皮切りの、昨年11月には家族が築の団地を買い取り、リノベーションを軸に提供している。リノベ不動産は、今年10月には「三井」建ての団地を買い取って改修した。さらに来年1月には経営者の意見を反映したモデルルームをオープンする予定だ。リノベーションした団地に住む顧客から集まる情報を、みての感想を生かして、暮らし方を提案する。同社は「市神奈川を中心に、神奈川県全域でリノベーション事業を展開していきたい」としている。

